

ニシテ之ヲ清國政府ニ對スル日本政府ノ第一次絶交書ト謂フヲ得ヘシ

第五章 朝鮮ノ改革ト清韓宗屬トノ問題ニ關スル概説

朝鮮内政ノ改革ト云ヒ清韓宗屬ノ問題ト云フモ畢竟其本源ニ溯レハ日清兩國カ朝鮮ニ於ケル權力競争ノ結果タルヲ以テ今本問題カ如何ニ進行シタルヤヲ講究スルノ前ニ畧日清兩國從來ノ關係如何ヲ概説スルノ必要アリ抑日清兩國カ友鄰ノ邦國トシテ互ニ往來交際シタルハ年所甚タ久遠ナリ政治典例文學技藝道義宗教等凡百文明ノ元素タルヘキモノハ殆ト其淵源ヲ同一ニシ且ツ往昔ニ在テハ我邦ハ常ニ彼國ノ文明ニ因リ誘導セラレタルノ惠ヲ蒙リシコト甚タ多ク彼ハ自ラ先進國ノ地位ヲ占メ我ハ自ラ後進國タル如キ狀アリシ然ルニ近來歐洲各國カ漸ク其勢力ヲ東洋ニ展及シ所謂西歐の文明ノ元素モ亦絶東ノ方域ニ流注シ來リ特ニ我國ハ維新以來茲ニ二十有七年政府モ國民

モ汲々トシテ西歐の文明ヲ採用スルコトヲ努メ之ニ依テ百般ノ改革ヲ遂ケ駁々トシテ長足ノ進歩ヲナシ殆ト古日本ノ面目ヲ一變シテ新日本ノ勃興ヲ見以テ當時ノ先進國タル歐米各國ヲシテ驚歎ノ聲ヲ發セシムルニ至リタリ然ルニ清國ニ在テハ依然往昔ノ習套ヲ墨守シ毫モ内外ノ形勢ニ應シテ其舊慣ヲ變改スル所ナキヲ以テ僅ニ一衣帶水ヲ隔テル兩國ニシテ一ハ西歐の文明ヲ代表シ他ハ東亞の習套ヲ保守スルノ異觀ヲ呈出シ來レリ嘗テ我國ノ漢儒者流ハ常ニ彼國ヲ稱シテ中華又ハ大國ト云ヒ頗ル自國ヲ屈辱スルヲ顧ス若ニ彼ヲ崇慕シタルノ時代モアリシニ今ハ早我ハ彼ヲ稱シテ頑迷愚昧ノ一大保守國ト侮リ彼ハ我ヲ視テ輕佻躁進妄ニ歐洲文明ノ皮相ヲ模擬スルノ一小島夷ト嘲リ兩者ノ感情氷炭相容レス何レノ日カ茲ニ一大爭論ヲ起サ、ルヲ得サルヘク而シテ外面ノ爭論ハ如何ナル形跡ニ出ツルモ其爭因ハ必ス西歐の新文明ト東亞の舊文明

トノ衝突タルヘシトハ識者ヲ待タズシテ知ルヘキ事實ナルニ加ヘ疆土相接シ國力稍均等ナル鄰邦ノ間ニハ常ニ存在スル相互ノ功名心相互ノ猜忌心ハ日ニ月ニ兩者ノ憎惡ト嫉妬トヲ醸生シ彼此互ニ怪異スヘカラサルコトヲ怪異シ彼此互ニ輕侮スヘカラサルニ輕侮シ表面未タ何等ノ争徴ヲ露サ、ルモ禍機ハ何ノ時何ノ處ニ爆發スルヤヲ知ラズ彼ノ琉球問題及臺灣問題ノ如キハ今茲ニ詳述スルノ要ヲ見サレトモ明治十五年ノ後ハ日清兩國カ其競争ノ焦點ヲ專ラ朝鮮國內ニ集メタル姿トナリ爾來朝鮮ノ事トサヘ云ヘハ彼我互ニ嫉妬ノ眼ヲ以テ相睨視シタリ乃チ今回ノ事件ニ於テモ亦當初ヨリ朝鮮ノ内亂ヲ機トシテ彼我共ニ其權力ヲ該國ニ張り自家ノ功名心ヲ満足セムトシタルハ事實ニ於テ之ヲ掩フヘカラサルナリ

授帝國政府ノ提案タル共同委員ノ説ハ清國ノ拒絕スル所トナリタリ我政府ハ獨力ヲ以テ朝鮮ヲ改革スルノ任ニ當

朝鮮内政改革問題
對我國朝野ノ
議論

ラサルヲ得サルノ場合トナレリ是竟ニ衝突ノ端トナルヲ免レサルヘシトハ豫テ覺悟シタル所ナレトモ騎虎ノ勢亦之ヲ如何トモスル能ハサリシナリ抑日清兩國ノ争點ハ第一ニ朝鮮内政ノ改革ヲ實行スルノ手段方法第二ニ清韓宗屬ノ決定如何ト云フニアリ而シテ宗屬ノ關係ハ牙山戰捷ノ後朝鮮政府ハ我政府ノ勸告ニ從ヒ自ヲ獨立國タルコトヲ言明シ又併テ其獨立ノ資格ニ妨害アリト稱シタル清韓通商章程等ノ諸定約ヲ公然廢棄スルコトヲ宣言シタルニ依リ問題既ニ死滅シタル姿トナリタル上更ニ下ノ關係約ニ於テ清國政府自ラ朝鮮ヲ以テ一個ノ獨立國タルコトヲ確認シタルヲ以テ此一點ニ就テハ我政府全ク當初ノ目的ヲ遂ケ確然トシテ復些ノ疑議ヲ容レサルニ至リタレトモ朝鮮内政ノ改革ナルモノニ就テハ從來種々紛雜ナル事情ノ存在スルモノアリテ今尙ホ満足ナル結果ヲ見ル能ハサルノ感ナキ能ハス抑我國ノ獨力ヲ以テ朝鮮内政ノ改革ヲ

擔任スヘシトノ議ノ世間ニ表白セラル、ヤ我國朝野ノ議
論實ニ翕然一致シ其言フ所ヲ聽クニ概テ朝鮮ハ我鄰邦ナ
リ我國ハ多少ノ艱難ニ際會スルモ隣邦ノ友誼ニ對シ之ヲ
扶助スルハ義俠國タル帝國トシテ之ヲ避クヘカラスト云
ハサルナク其後兩國已ニ交戦ニ及ヒシ時ニ及テハ我國ハ
強ヲ抑エ弱ヲ扶ケ仁義ノ師ヲ起スモノナリト云ヒ殆ト成
敗ノ數ヲ度外視シ此一種ノ外交問題ヲ以テ宛モ政治的必
要ヨリモ寧ロ道義的の必要ヨリ出テタルモノ、如キ見解ヲ
下シタリ尤モ斯ル議論ヲ爲ス人々ノ中ニモ其胸秘ヲ推究
スレハ陰ニ朝鮮ノ改革ヲ名トシテ漸ク我版圖ノ擴張ヲ企
圖シ然ラサルモ朝鮮ヲ以テ全ク我保護國トシ常ニ我權力
ノ下ニ屈服セシメムト企圖シタルモノモアルヘク又實ニ
朝鮮ヲシテ適應ノ改革ヲ行ハシメ福小ナカラモ一個ノ獨
立國タルノ体面ヲ具ヘシメ他日我國カ清國若ハ露國ト事
アルノ時ニ際シ中間ノ保障タラシメムト思料シタルモノ

モアルヘク又或ハ大早計ニモ此際直ニ我國ヨリ列國會議
ヲ召集シ朝鮮ヲ以テ歐洲大陸ノ白耳義瑞西ニ於ケルカ如
キ列國保障ノ中立國トナスヘシト擬議シタルモノモアリ
ト聞ケトモ是レ孰レモ大概個々人々ノ對話私語ニ止リ其
公然世間ニ表白スル所ハ社會凡俗ノ輿論ト稱スル所謂弱
ナ扶ケ強ヲ抑ユルノ義俠論ニ外ナラサリキ余ハ固ヨリ朝
鮮内政ノ改革ヲ以テ政治的の必要ノ外何等ノ意味ナキモノ
トセリ亦毫モ義俠ヲ精神トシテ十字軍ヲ興スノ必要ヲ視
サリシ故ニ朝鮮内政ノ改革ナルモノハ第一ニ我國ノ利益
ヲ主眼トスルノ程度ニ止メ之カ爲メ敢テ我利益ヲ犧牲ト
スルノ必要ナシトセリ且ツ今回ノ事件トシテ之ヲ論スレ
ハ畢竟朝鮮内政ノ改革トハ素ト日清兩國ノ間ニ蟠結シテ
解ケサル難局ヲ調停セムカ爲メニ案出シタル一箇ノ政策
ナリシテ事局ニ變シテ竟ニ我國ノ獨力ヲ以テ之ヲ擔當セ
サルヲ得サルニ至リタルモノナルカ故ニ余ハ初ヨリ朝鮮

内政ノ改革其事ニ對シテハ格別重キヲ措カス又朝鮮ノ如キ國柄カ果シテ善ク満足ナル改革ヲ爲シ遂クヘキヤ否ヤナ疑ヘリ然レトモ朝鮮内政ノ改革ハ今ヤ外交上一種ノ活問題トナリ我政府ハ兎モ角モ之カ實行ヲ試サルヲ得サルコト、ナリタレハ我國朝野ノ議論カ如何ナル事情源因ニ基キタルカ如キハ之ヲ問フニ及ハス兎ニ角此一致協同ヲ見タルノ頗ル内外ニ對シテ都合好キヲ認メタリ余ハ此好題目ヲ假リ己ニ一回破裂シタル日清兩國ノ關係ヲ再ヒ調和シ得ヘキカ若又終ニ之ヲ調和スル能ハストセハ寧ロ因テ以テ其破裂ノ機ヲ促進スヘキカ兎モ角陰々タル曇天ヲ一變シテ一大強雨ヲ降ラスカ一大快晴ヲ得ルカノ風雨針トシテ之ヲ利用セムト欲シタリ

勸告スルニモ表面上餘リニ手荒キ方法ヲ取ル能ハサルハ論ヲ待タス歐米諸強國ハ將來我政府カ朝鮮ニ對シ如何ナル計畫ヲ施設スヘキカト各眼孔ヲ披イテ環視シ居ルノ際我レ若シ一步ヲ誤ラハ殆ト四面皆敵ノ危險ニ陥ラサルヲ得サルノ期運タリ故ニ其朝鮮政府ニ向テ内政ノ改革ヲ勸告スルニモ深ク内外ノ形勢ヲ顧ミ毎ニ寬猛其宜ヲ失ハサラムコトニ注意シタリ是ニ於テ乎其手段ハ自ラ活潑敏速ヲ缺クヲ免レサリシノミナラス朝鮮ノ如ク彼レ自ラ其國ノ積弊ノ如何ニ甚シキヤヲ悟ラス從テ亦自ラ之ヲ矯改スルノ必要ヲ感スル能ハサルノ國柄ニ對シ他ヨリ之ヲ勸告獎勵スルコトハ恰モ滔天ノ洪水ヲ脆弱ノ廢堤ヲ以テ防カムトスルカ如ク僅ニ此一隅ヲ修覆シ了スレハ忽チ他ノ一角ヨリ氾濫ヲ來タシ折角我政府カ慈愍シタル改革案ナルモノモ其精神常ニ同シキモ其形狀ハ時々ニ變改セサルヲ得サルニ至レリ且ツ此事業ヲシテ單ニ日韓兩國ノ間ニ

朝鮮問題ニ關スル
主題ト客題トノ關
係

ミ止マリ毫モ他國ノ意向如何ヲ顧慮スルニ及ハサル事柄
タラシメハ何等ノ難事モ容易ニ了結シタルヘシト雖モ凡
ソ朝鮮問題ニ付テハ最初ヨリノ行懸リトシテ其名義上ニ
於テコソ常ニ朝鮮カ主題タルニ拘ラス殆ト事々物々他ノ
第三者タル各強國ノ意向如何ヲ斟酌セサルヘカラサル事
情ヲ生シ此事情ノ動スレハ本件ノ客題トナリ主題ト客題
トノ間ノ關係ヲ調和スルコトノ甚々困難ナル爲メ又主題
ト客題トノ重要ノ度合甚々懸隔スル爲メ其主題タル朝鮮
問題ハ寧ロ中途ニシテ放漫ニ付セサルヲ得サルニ至リ往
往垂成ノ効果ヲ一簣ニ缺キタル事モ少カラス之ヲ約言ス
レハ彼ノ共同委員ノ說破裂シテ我政府カ獨力ヲ以テ朝鮮
ノ改革ヲ任スヘシト言ヒ出シタル後今日ニ及ヒ尙ホ未タ
全ク其事業ノ終了シタルヲ見サル所以ハ上述ノ理由ニ基
カスムハアラス而シテ朝鮮改革ノ顛末ハ事端甚々滋ク記
事亦長ク到底之ヲ一章ノ内ニ包括スル能ハサルヲ以テ暫

ク之ヲ數期ニ分チ各其章ヲ異ニシテ叙述セサルヲ得ス即
チ日清兩國ノ間共同委員說ノ破裂シタル後牙山戰捷ノ時
ニ至ルマテテ朝鮮改革ノ第一期トシ牙山戰捷ノ後井上伯
カ特命全權公使トシテ大島公使ニ代リ朝鮮ニ派遣セラレ
タル時ニ至ルマテテ其第二期トシ井上公使カ朝鮮ニ赴任
ノ後日清講和條約成ルニ至ル迄ヲ其第三期トス

第六章 朝鮮内政改革ノ第一期

清國政府特ニ李鴻章ハ後漸ク我政府ノ決心ヲ覺知シ頗ル
周章シタルカ如ク如何ニモシテ我國カ朝鮮ノ内政ニ干預
スルヲ妨ケムトシ彼ハ嘗テ我政府ニ對シ朝鮮ノ變亂ハ既
ニ平定セリト明言シ置キナカラ尙ホ其事ノ分明ナラサル
ニ懸念セシモト見エ俄ニ袁世凱ニ電訓シ曩ニ朝鮮政府
ハ已ニ賊匪平定セリト告クト雖モ無數ノ亂民遁逃シ今ニ
踪跡ナク賊魁ヌラ未タ擒獲シ得サレハ變亂如何ニ鎮定ス
ト云フモ之ヲ信スルモノアラサルノミナラス爲メニ他國